

## 一般財団法人 北陸予防医学協会 副理事長就任ご挨拶



医師・医学博士 永田 義毅

この度、北陸予防医学協会 副理事長に就任いたしました。今回の就任にあたり、推挙していただいた方々に心より感謝を申し上げます。

本協会は、約70年前に永田レントゲン研究所として発足しました。終戦後の日本国内に蔓延していた結核の感染者を早期発見するため、レントゲン装置を活用する事業を始めたことが協会の原点です。今また、新型コロナウイルスという新しい感染症にさらされている社会の中で、医療機関に所属する私たちには大きな期待が寄せられています。感染症対策を行いながら健診業務を続け、ワクチン接種を通じて地域医療に貢献する協会職員

の活躍は、大変心強く、健康的な社会を取り戻す一助となっています。

人生100年時代と言われる少子高齢化社会に新型コロナウイルスパンデミックが加わり、社会構造のあり方が変わり始めています。ダイバーシティ社会の実現、デジタルトランスフォーメーション、ビッグデータ、人工知能などが活用され、多様性のある医療へ進化が求められる時代です。

これからも、安全と安心を提供できる医療機関として、協会職員と一緒に地域医療を通じて富山県民の未来に貢献していきたいと思っています。皆様、何卒よろしくお願いいたします。

## 第49回「富山県産業安全衛生大会」が 開催されました

富山県産業安全衛生大会が7月15日(木)「ボルファートとやま」において開催されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、内容が一部変更されての実施となりました。安全衛生水準が良好で他の模範と認められる事業場に授与される奨励賞は、昭和電工セラミックス株式会社富山工場とアロン包装株式会社、安全衛生水準の向上発展に多大な貢献をした個人に贈られる安全衛生推進賞は、元建設業労働災害防止協会富山県支部安全指導者の川辺一正氏に富山労働局長表彰が行われました。

また、「重篤災害撲滅に向けた設備のロックアウト徹底」と題し、Office EBATA 代表 江幡孝道氏の安全衛生の取り組みの事例発表がありました。

富山県THP推進協議会は、事務局の北陸予防医学協会が「健康づくり相談コーナー」を開設し、日常生活で転倒しそうなときなど、とっさに危険を回避する動作で重要な要素である敏捷性を測定し、転倒災害防止のためのアドバイスを実施しました。



## 近年の尿酸値の上昇と BMI・飲酒量との関連

北陸予防医学協会 医師 柏谷 貴之

### はじめに

高尿酸血症の基準値は男女、年齢を問わず7.0mg/dL以上と定義されています。高尿酸血症は痛風関節炎や、尿路結石を誘発し腎障害の原因となります。また、近年ではメタボリックシンドロームを示唆するマーカーとしても注目されています。遺伝要因と環境要因が関与していますが、環境要因としては、肥満、アルコール摂取、特定の食品の過剰摂取やストレスが高尿酸血症・痛風のリスクと考えられています。

### 近年の疫学調査から

インターネットへのアクセスや保健指導の普及により、個人の健康への関心も高まってきたと感じます。そこで、実際に尿酸値がどう変化したのかを2012年、2016年、2020年の健康診断の記録を比較しました。その結果、男女ともに尿酸値は有意に上昇していることがわかりました。では、そのリスク項目である肥満とアルコール摂取は変化しているのかを調査しました。肥満はBMIを、アルコール摂取は飲酒量と頻度を指標としました。



### 調査結果

BMIは2012年、2016年、2020年と年々有意に上昇していました。飲酒量は、男性で2合以上～3合未満と3合以上の割合が増加していました。女性は、1合未満の割合の減少、2合以上～3合未満と3合以上の割合が増加していました。飲酒頻度は、男性において、ほとんど飲まない割合が増加し、毎日飲む割合が減少していました。女性では、ほとんど飲まない割合が2016年に減少し2020年に増加、毎日飲む割合が2016年に増加し2020年に減少していました。

### 高尿酸血症の予防

男女ともにBMIと飲酒量は有意に上昇しており、尿酸値の上昇に影響を及ぼしていると考えられます。高尿酸血症を指摘された場合はBMI調整のため、運動療法として継続的な有酸素運動を、まずは散歩や興味のある運動等から始められてはいかがでしょうか。楽しみを加えれば、より継続しやすいでしょう。食事量を調整される場合は日常の負荷にもよりますが、適正なエネルギー量として、デスクワークの多い作業では(身長(m))<sup>2</sup>×22×(25～30)kcal、立ち仕事が多い作業では(身長(m))<sup>2</sup>×22×(30～35)kcal、力仕事が多い仕事では(身長(m))<sup>2</sup>×22×35kcalが目安となります。なお、(身長(m))<sup>2</sup>×22がその身長における標準体重(kg)です。飲酒量の目安としては、1日当たり日本酒1合、ビールでは350～500mLとされています。

健康診断にて要受診の場合は受診、再検査を受けてください。経過観察となった場合は上記を参考に、それぞれ余裕のあるところから少しずつ取り組んでください。健康で長年に仕事をしたいためにも、健康診断の結果や保健指導を有効にご活用ください。



## 情報管理課紹介

# 情報処理の中核です！



私たち情報管理課には現在、職員22名が在籍しており、富山市西二俣の健康管理センター内の事務所で勤務しています。主に結果通知等の納品物を作成する業務を行っており、巡回健診や県内3カ所の施設すべての健診データを処理しています。

作業内容は左記となります。

- 受診票等に記載された問診・検査数値のデータシステムへの取り込み作業
- 血液等の検体から得られた検査データの確認と統合
- 画像検査等の判定手配とデータシステムへの登録
- 各種データのエラーチェック
- 通知書類の印刷と封入封緘



日々フル稼働している封入封緘機です。

作業を行う際には、システムエラーやヒューマンエラーを防ぐため、チェック作業を入念に行っています。また、判定の精度を高めるために遠隔画像システムを導入する、処理数の増加にも対応するため、新型の封入封緘機を増設する等、日々業務改善に取り組んでいます。

受診者や事業所担当の皆様との直接の関わりは少ない課ですが、今後も陰ながら健康診断結果を正確・迅速にお届けできるよう努めてまいりますので、よろしく願っています。

なお、ホームページにも掲載されている健診結果証明書の発行については、情報管理課までお気軽にお問い合わせください。



# 東京パラリンピックにおける 医務室ボランティア活動

日本スポーツ協会公認スポーツドクター

千代田循環器内科クリニック 永田 義毅

2021年4月末、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より、医務室における救急処置対応をするため、スポーツドクターに協力依頼が届いた。依頼を受けた私は、8月下旬のパラリンピック開催中の2日間、車椅子アーチェリー会場を担当した。首都圏は新型コロナウイルス感染症が急拡大、猛暑日で熱中症が多発し、医療負担が増えている時期であった。



パラリンピックに参加する選手は、知的障害や視覚障害、手足の欠損など障害の状態や程度は様々である。車椅子アーチェリーに多い脊髄損傷を持つ選手は、発汗障害によって体温調整がうまくいかず、水分バランスを崩すことがありうる。また長時間路上で活動する大会ボランティアが熱中症に陥る危険性が高い。医務室では、医師、看護師、理学療法士、消防署隊員が待機し、救急搬送に備えて救急車も配備されていた。今回の大会では、会場内で新型コロナウイルス感染症が発生した場合に備えて、感染症用テントや防護服が準備されていた。大会関係者は、定期的にPCR検査を受けて消毒液や水分補給の準備をし、細心の注意を払いながら大会を支えていた。

会場で見かけた車椅子や義足のパラリンピック選手達は、体のハンデと心の葛藤を乗り越えてきた国の代表である。障害を抱え、年齢を重ねてもスポーツを通じて成長する彼らの活躍は、障害者だけでなく、新型コロナウイルス感染症で暗くなりがちな社会全体に明るい希望を与えてくれた。大会での選手達の活動を支える医師として協力させていただき、障害者スポーツにおける医療の重要性を感じる良い機会を得られたことに感謝している。

